

支 部 長 挨 拶

秋田谷英次（北大低温科学研究所）

平成3年6月の本支部会総会で支部長と言う大役を仰せつかり、その責任の重さを痛感しております。微力ではありますが、歴代支部長の業績を見習い、また支部会員や役員各位のご協力、ご指導のもとで支部発展にお役に立ちたいと考えております。私は10年以上もまえに支部幹事や幹事長を仰せつかり、当支部の各種行事（談話会、見学会、積雪観測講習会）、そして昭和55年の全国大会のお手伝いをさせて頂きました。しかし、当時とは社会情勢や雪氷に対する考え方も大きく変わっているので、学友支部としても時代にマッチした対応をしなければなりません。すなわち、以前は雪や寒さは人々の暮らしにマイナス要因であり、それらを克服し、雪のない地方と同じ様な生活や経済活動をするために「克雪」の考え方が主流でした。そのために科学技術の力で様々な積雪寒冷に関する障害を除去する努力をしてきました。このやり方は、いわば自然に逆らう方法で多くの資材しエネルギーを要します。その結果として、スパイクタイヤの問題で見られる様に環境や健康に関する新たな問題がでてきました。近年は、自然に逆らわずに自然と融和した技術開発の必要性が認識されてきました。そのためには自然を理解し、自然の力をうまく利用して、ハード・ソフトの両面に対応しなければなりません。一方自然の仕組みを理解することにより、自然と親しみ、積雪寒冷そのものを積極的に利用しようという動きもでてきました。「親雪」とか「利雪」という言葉も生まれてきました。各地で実施または計画されている大規模スキー場の開発が、その一つの典型例ですが、これも自然破壊や乱立の気配が見受けられます。人真似ではなく、地域に密着した、自然と融和した、雪氷寒冷の新たな利用法が模索されている時代と言えましょう。

本学会の会員は北海道各地いで直接・間接的に雪氷に関連したしごとになら携わって活躍しています。また多くの企業の方々が賛助会員として本学会に援助・協力をしていただいています。これまでも談話会等を通して雪氷問題をとりあげてきましたが、さらにこれらを充実し、一般会員、賛助会員、しいては道民のためになるような支部活動が必要と考えています。皆様の知恵をお借りして、支部の発展に尽くしたと考えております。

樹林帯で新しい風土をつくる

ここ2、3年のことであるが、北海道の開拓・開発を通じて平野の樹林がほとんど失われたので、農村景観・都市景観を高め、新しい風土を創造するために、樹木を群で植えよう、という機運が高まってきた。

明治以降、今日まで森を伐開することが文明開化であった。その考えを改め、21世紀には、みどり豊かな郷土を、道路沿い、水路沿いの除地（草地）に樹林帯を防風林という形で、造成する、というのである。国や道の予算も計上されるそうであり、誠に結構な話である。

何の樹種を、どのくらいの規模や密度で、どういう基礎工事をして、植えるのか？——こういう質問がくる。応えは簡単である。——その周辺の屋敷林、庭木、鎮守の森（寺院・神社の境内林）観察・調査すればよいのである、と。

思えば、四半世紀もの昔、屋敷林を調査して、それを卒論に描いたのであった。若い頃から、「風土」の概念をもっていた。南関東の屋敷林のある家に育ったからであろう。北海道に来たとき、自然そのものは雄大でも、人間の働きかけが荒すぎる、と思った。広い敷地に木も植えないで、また、むき出しの寺院や神社があって、新開発地は心貧しいものなのか、と感じた。

これからは、防風林や樹林帯の造成を通じて、潤いのある、開発と創造が並立した、明日の北海道を築いてゆくことになる。そして、お上の予算だけに頼らず、自らも屋敷林を、鎮守の森を、都会の森を、創造してゆく機運が盛り上がれば、さらに素晴らしい風土が形成されよう。大いに期待したい。



斎藤新一郎

平成 3 年度研究発表会講演要旨

日時：平成 3 年 6 月 19 日（水） 10：00－15：50

会場：北海道学術交流会館 第一会議室

午前の部

10：00－10：30 支部総会

研究発表会 （発表時間 12 分 質疑応答を含む）

10：35－11：50 座長 高橋修平（北見工業大学）

①衛星画像に見られるオホーツク海の海水と大気の特徴

榎本浩之、百武欣二、高橋修平（北見工業大学）

②1990～91年冬期の道北地方の積雪分布と化学成分の変動

藤原滉一郎（北大演習林）、佐藤冬樹、笹智一郎（北大天塩演習林）

③平成2年～平成3年冬期の札幌における平地積雪の特徴

尾関俊浩、秋田谷英次、白岩孝行（北大低温研）

④森林内における積雪分布

北原曜、中井裕一郎、坂本知己、斎藤武史（森林総合研究所北海道支所）

⑤アメダスデータに基づく北海道内の凍結－融解出現頻度分布について

福田正己（北大低温研）、岩崎一孝（北大文学部）

⑥苫小牧における土壌凍結深、凍上量と凍結指数の関係

石崎武志、原田鉦一郎、鳥田宏行、福田正己（北大低温研）

午後の部

13：10－15：50 座長 植松 孝彦（日本気象協会北海道支部）

⑦根釧原野のアースハンモックにおける凍結深観測

曾根敏雄（北大低温研）

⑧大雪山および周辺低山地における永久凍土の分布

原田鉦一郎、福田正己、石崎武志、曾根敏雄（北大低温研）

⑨北見地方置戸町に見られる氷穴の観測

高橋修平、榎本浩之、沢田正剛、百武欣二（北見工大）、安達寛（北見土質調査事務所）、福田正己（北大低温研）

⑩凍土層形成に対する物理探査の適用例－帯広畜産大学実験圃場の場合－

河内邦夫、武藤章、後藤典俊（室蘭工大）、高見雅三、和気徹
（道立地下資源調査所）、土谷富士夫（帯広畜産大学）

⑪膜材を用いた屋根の滑雪性状について

山形敏明、山田利行、中島肇、山口英治、橋本茂樹、苔米地司（道工大）

⑫膜材を用いた屋根の滑雪距離について

山口英治、山田利行、中島肇、橋本茂樹、山形敏明、苔米地司（道工大）

⑬膜材を用いた屋根における滑雪後の堆積性状について

橋本茂樹、山田利行、中島肇、山口英治、山形敏明、苔米地司（道工大）

⑭ガラス屋根用いた屋根の滑雪性状について

苔米地司、伊東敏幸、山口英治、橋本茂樹、星野政幸（道工大）

⑮非磁器がいしの着氷雪特性について

藤井裕（北海道電力総合研究所）

⑯北海道の冬期間における自動車の諸問題と現状

宮下義孝（北海道自動車短期大学）

⑰雪尺・樹木等のまわりの融雪凹みの成因について

小島賢治（中央区南9西17）

⑱耕地防風林の地吹雪捕捉機能と樹木の雪害について（第3報）――間伐及び裾

枝打ちが雪丘形成に及ぼす影響について

斎藤新一郎、成田俊司（北海道立林業試験場）

⑲道路防雪林の成長経過について－道央自動車道札幌～岩見沢間の事例

斎藤新一郎（北海道立林業試験場）、上島勉（日本道路公団札幌建設局）